

神戸市立美賀多台小学校 学校評価報告書

神戸の教育が目指す人間像		教育ビジョン		神戸が目指す これからの学校の姿		
心豊かに たくましく生きる人間		自他を大切に 自ら考え 未来をつくる		人がつながり ともに創る みんなの学校		
学校の 校 目 標 く り	未来を切り拓き、豊かな人生を歩む みかたっ子					
内容		重点的な取組み	評点 (4段階)	特記事項 (学校自己評価)	関係者評価 (学校自己評価に対する学校運営協議会の意見等)	学校自己評価、関係者評価を踏まえた 次年度の重点的な取組みの案
育 て たい 子 ど も の 姿	すすんで（自己教育力） やさしく（思いやりの心と豊かな感性） たくましく（体力・気力）					
	すすんで（自己教育力）	自分の思いや考えを伝える	3	授業で思いを伝えあう場の設定、少人数での話し合い活動（ペアトークやグループ）などに努めてきた。また、異学年交流を活発に行うことができた。	参観では話し合う場をよく見かけた。今生きる力として大切なところなのでしっかり取り組んでほしい。	自分の思いや考えを出せるようになってきたが、それを聞くだけに留まっている。さらに異学年交流する機会を持ち、聞き合い、考えをつなげ、さらに交流を深めるようにしていきたい。
	やさしく（思いやりの心と豊かな感性）	気持ちのいい挨拶と返事 親切や思いやりのある集団づくり	3	気持ちの良い挨拶と返事ができているかは、子供と保護者で認識にずれがある。特に保護者は、学校外でも進んで挨拶ができる子供の姿を期待していると考えられる。丁寧な言葉遣いは、できていると答えた子供が39%にとどまっている。	誰にでも挨拶できる地域にと共に生きる人材に育てたい。	挨拶や返事は、習慣づくように学校でルールを決めていく。丁寧な言葉遣いについては、相手を思いやった言葉遣いができている子供が多いため、その場その場で教師が価値づけていく。
	たくましく（気力・体力）	粘り強く取り組む 体力づくり 給食指導・食育の推進 もくもく掃除 学校保健委員会	3	粘り強く取り組んでいるかの項目では、子供の自己評価は高いが、保護者や教師の評価からは課題が見られる。外で遊ぶ児童が増えてきたが、メンバーは固定化されている。もくもく掃除の取り組み方にはバラつきがある。	遊びの中で学ぶことは多い。大切にしてほしい。	休み時間に外遊びに行く子供を増やすため、縄跳びイベントを行ったり、休み時間のを増やしたりするなど体力向上の取り組みを増やしていく。もくもく掃除は、学年に応じた目標を立て、段階的に指導していきたい。
必 須 テ ー マ	①いじめ防止対策に関する取組み	いじめ防止基本方針の見直しを実施 いじめアンケートの実施（学期に1回）	3	「いじめ防止基本方針」の見直しを実施。学期に1回のいじめアンケート実施とそれに個別の聞き取りを行い、早期発見・早期解決を心掛けた。3回目のアンケートでは、全児童への聞き取りを行った。	いじめアンケートは子供たちの困り感を出し早期解決するためのものである。書かれたことを解決の糸口としてとらえて、聞き取ったり保護者と連携したりして解決していきたい。決めつけることなく双方に話を聞いていくことが大切。	今後も、いじめが起これにくい学級づくりができるように、児童理解と共に学級経営についての研修も重ねていく。子供からの訴えを見逃すことがないよう、日々の信頼関係の構築を重視する。
	②不登校支援の取組み	校内支援委員会の実施 関係機関との連携	3	登校しづらい児童に対して、全職員で共通理解を図り、複数の職員で児童・保護者に寄り添ったきめ細かい取組みを実施した。	無理に登校させるのではなく、家庭との連絡を密に取りながら、本人にとってより良い方法を考えていく。	登校しづらい児童に対しては、学校との繋がりを切らないようにし、関係機関との連携を図り、保護者と協力しながら学習保障できるようにしていきたい。不安の原因が取り除けるように、連絡を密にして取り組んでいく。
	③教職員の業務改善	職員会議、各種委員会 勤務の適正化	3	割振りの取得の推進、フレックスタイムの活用など業務改善は段階的に推進できているが、超過勤務や持ち帰りの仕事についてなかなか軽減できていない。	学校でも工夫をしているようだが、変わらず教師は忙しく仕事をしていると思う。人員を増やしてほしいと切に願う。	令和の時代における『学校の業務と活動』をもとに、今後も業務改善を進めていく。校務分掌を見直し、経験年数も踏まえたうえで、偏りのないものにする。
	④保護者・地域への情報提供・発信（すぐるの活用、ホームページ等）	学校や学年からのお知らせの配信、アンケート調査を「すぐる」日々の子供たちや学校の様子、学校だよりの更新を「学校HP」で行った。	3	学校からのお知らせ、学級・学年からの連絡を主に「すぐる」を活用した。地域への学校だより送付を減らし、「すぐる」や「学校HP」で確認できるようにした。「学校HP」は、学校での子供たちの様子をタイムリーにお知らせしようと思った。	保護者と学校・地域をつなぐ大切なツールである。より一層の活用をお願いしたい。	来年度も引き続き「すぐる」や「HP」を利用して保護者・地域への情報発信を行っていく。アンケート機能など便利な機能も適宜活用していく。

【評点】 4：十分達成できた 3：おおむね達成できた 2：どちらかと言えば課題がある 1：課題がある